

第5回 全国校区・小地域福祉活動サミットin宇治

# つながり上手で地域をつくる!

じゅう えん  
~10のご縁で充縁に~



開催日

2011年11月26日 土

会場

宇治市文化センター・宇治市中央公民館  
宇治茶会館・宇治市生涯学習センター・宇治市産業会館

主催:「第5回全国校区・小地域福祉活動サミットin宇治」実行委員会  
小地域福祉活動を楽しむ全国ネットワーク/全国コミュニティライフサポートセンター  
共催:宇治市社会福祉協議会[コラボネット宇治]/京都府社会福祉協議会



日本財団 助成事業  
The Nippon Foundation

この事業は競艇の交付金による日本財団の助成金を受けて実施します。



## 開催趣旨

1. 無縁社会が社会問題としてクローズアップされるなか、東日本大震災の発災により、改めて地域での「つながり」「縁(えん)」の大切さが見直されています。その「地域でのつながりづくり」や「縁づくり」を地域住民、ボランティア活動者、専門職などの参加者と一緒に考える機会とします。
2. 小学校区や町内会・自治会などの日常生活圏域で活動を行っている団体や、さまざまな目的をもとに活動を行っている団体など、多様な人びとが一堂に会し、実践交流を通じて活動の幅を広げ、住みやすいまちや地域づくりにつながるように、日々の活動の質を高め合う契機とします。
3. 開催地である宇治市社会福祉協議会では「コラボネット宇治」の愛称を掲げ、地域のコーディネーターとして「コラボレーション」を展開しています。さまざまな団体や組織、個人が協働して、新たな地域活動やつながりづくり、縁づくりの必要性を改めて認識する場とします。
4. 東日本大震災で被災された方々に寄り添う気持ちを大切にしながら、これからも各地の地域活動を通じて、被災地を応援していけるようにメッセージを発信します。

## プログラム

11時～ 受付開始(宇治市文化センター)

12時～ 開会

- 開会あいさつ 実行委員長 伊藤 義明
- 来賓祝辞 京都府知事 山田 啓二  
宇治市長 久保田 勇
- 趣旨説明 実行委員会企画部会長 岡田 盛敏

12時20分～ 基調講演

講師

「第5回全国校区・小地域福祉活動サミットin宇治」実行委員会  
名誉実行委員長 牧里 每治  
(関西学院大学人間福祉学部 教授)

12時50分～ 各分科会会場への移動

13時20分～ 10の分科会開始

16時～ 全体会会場への移動  
(宇治市文化センター大ホール)

16時30分～ まとめのパネルディスカッション

パネラー

宇治学区福祉委員会 副委員長 海老名 典子  
宇治市社会福祉協議会 事務局長 岡野 英一

コーディネーター

日本福祉大学社会福祉学部 教授 平野 隆之

17時15分～ 閉会

- 共同宣言 実行委員会おもてなし部会 池田 静子
- 大会旗引き継ぎ 実行委員会おもてなし部会長 堤 武彦
- 閉会あいさつ 実行委員会顧問 井岡 勉

18時 終了

19時～ 懇親会(希望者のみ)

場所 パルティール京都(宇治市宇治樋ノ尻88)

## 基調講演

宇治のサミットでは、すべての分科会を「つながり」や「縁」を軸に構成をしています。さまざまな地域活動、ボランティア活動を、地域住民、専門職と一緒に考える機会ととらえています。「つながり」が今改めてなぜ必要なのかを、みなさんと一緒に考えます。

また、東日本大震災の被災された方々へ、思いを寄せるメッセージも込めて発信します。

講師

「第5回全国校区・小地域福祉活動サミットin宇治」  
実行委員会

名誉実行委員長 牧里 每治  
(関西学院大学人間福祉学部 教授)

[会場]宇治市文化センター

## まとめのパネルディスカッション

分科会で話題とした「つながり」や「縁」から、宇治の、また、みなさんの地域活動の今までと、これから大切にしていきたいことを語り、参加者のみなさんに向けて発信します。

「つながり」や「縁」の大切さを再確認して、東日本大震災で被災された方々への応援メッセージにするとともに、地域活動をする全員に明日への活動の希望を発信します。

パネラー

宇治学区福祉委員会 副委員長 海老名 典子  
宇治市社会福祉協議会 事務局長 岡野 英一

コーディネーター

日本福祉大学社会福祉学部 教授 平野 隆之

[会場]宇治市文化センター





## 分科会 A

### 近所の互縁を住縁に

住んでいる地域の中で一番身近な単位の組織である、「町内会・自治会」ですが、今、組織率も加入率も減少しています。町内会・自治会の役員からは、「若い人が入ってくれない」「高齢の方は役ができないと脱会してしまう」などの悩みの声も聞こえてきます。一方で、「町内会・自治会は煩わしい」という人も増えてきました。多くの社会福祉協議会や小地域福祉活動を実践する地区社協でも、町内会・自治会が直面する課題に、明確な答えが見いだせているとはいえません。

そのようななかで、「近所とのつながり」を大切にしている取り組みを進めているお話を聞いて、意見交換をして、明日からの自分たちの地域の取組みに活かしてみませんか。

#### 実践報告

- 府営西大久保団地連合自治会(京都府宇治市)
- 南つつじヶ丘自治会(京都府亀岡市)
- 速野学区社会福祉協議会(滋賀県守山市)

#### コーディネーター

- 大谷大学文学部 教授 山下 憲昭

#### 府営西大久保団地連合自治会 (京都府宇治市)

府営西大久保団地連合自治会では、発足より38年、100%の自治会加入体制を維持し、44ヶ棟の会長を始め、地域あげでの協力を得て、生活環境の改善、安心ある住み良い地域づくりに取り組んでいます。個人情報の壁があるなかで、緊急対応に役立つ高齢者(65歳以上1058人)名簿を把握して、地域団体の事業と連携を取り、敬老会、サロン、声かけ、友愛訪問、見守り活動を展開し、住民同士のつながりを深め、地域をまとめる要として活動しています。

#### 南つつじヶ丘自治会 (京都府亀岡市)

南つつじヶ丘自治会では昨年から地区社協を立ち上げる準備を進めています。65歳以上910人のまだまだ若い世代の多い地域ですが、団塊の世代が定年を迎え、今後10年を見据えたとき、少しでも地域との接触を通じて「顔の見える社会」を築きあげていくことが必要です。地区社協設立準備をするなかでの苦労話や、今後の活動のあり方について、まだまだ未熟な私たちですが、本音で語り合いつながりながら、日々の活動に取り組んでいます。

#### 速野学区社会福祉協議会 (滋賀県守山市)

速野学区社会福祉協議会では、「持ちつ持たれつ運動」をテーマに、「友愛訪問」「すこやかサロン」「子育てサロン」など、さまざまな取り組みや活動を展開しながら、住民が互いに交流を深め、誰もが安心して暮らせる地域づくりと福祉の推進に努めています。2008年に、「速野学区地域福祉活動計画」を作成し、市社協・学区社協・自治会が相互の連携を重視することで、さらに活動が広がりを見せています。

## くらしを支える縁(円)づくり

## 分科会 B

核家族化の結果、高齢者夫婦、または高齢者の単身世帯が急速に増えています。元気なうちはよくても、いったん支援が必要になると、自分たちの生活を成り立たせるだけでも、大きな課題となってきます。特に、地域の商店も経営が厳しくなるなか、身近な場所で買い物ができなくなっているという切実な課題があります。また、この分科会では「買い物」をキーワードに、地域の生活課題をさまざまな人のつながりで克服した話を聞き、意見交換をします。

#### 実践報告

- 温かなご用聞きねっと たんぼぼ(京都府宇治市)
- 東山区社会福祉協議会・京都女子大学(京都府京都市)
- 特定非営利活動法人 コミュニティサポート黒部(富山県黒部市)

#### コーディネーター

- 特定非営利活動法人 コミュニティサポートセンター神戸 理事長 中村 順子

#### 温かなご用聞きねっと たんぼぼ (京都府宇治市)

地域のために自分のできることをしたいと思うシニア層が、孤独を感じ、日々の買い物や日常生活に不便を感じるお年寄りや障がいのある方などの「ご用聞き」役を担っています。地元の商店街で買い物したり、時には話し相手やちょっとした手伝いをしたりすることで、商店街の活性化につなげるとともに、緩やかな見守りのある地域づくりを行っています。

#### 東山区社会福祉協議会・京都女子大学 (京都府京都市)

日本の都市部の15年以上先を行くといわれる、高齢化のまち京都市東山区において、社会福祉協議会と地元の京都女子大学が商店街など地元団体の協力を得て、「買い物支援応援隊」を実施しています。毎週1回、学生が高齢者の自宅を訪問して、一緒に、あるいは代行で日用品の買い物をします。この事業を通じて、学生は目の色が変わり、利用者は心身の状況が変わり、地域は福祉問題に対する認識が変化してきています。

#### 特定非営利活動法人 コミュニティサポート黒部 (富山県黒部市)

コミュニティサポート黒部では、商店街の空き店舗を利用したファミリーサポート事業に取り組みながら、「福祉と商店街の融合」をテーマに、地元商店街との協働による、「かって屋ふれあい便」事業を展開。公民館などの施設での移動販売所や、各商店の商品カタログを作成して宅配事業を行うことで、買い物場所が無いなどと困っているお年寄りはもちろん、子育て中の方や障がいのある方の日常生活のサポート活動を行っています。





## 分科会 C

### おうえん 子ども発! それゆけ横縁サポーター

子どもも地域の一員です。子どもの目には、地域活動はどのようにうつっているのでしょうか。地域活動を参加する子どもの側から見直します。

子どもだから感じていること、大人には「目からうろこ」のような話を聞いてみませんか。

#### 実践報告

- 西小倉地区社会福祉協議会(京都府宇治市)
- 深日地区福祉委員会 見守り隊・キッズEyeぼらんていあ(大阪府岬町)
- 庵原地区社会福祉協議会(静岡県静岡市)

#### コーディネーター

- 大阪教育大学教育学部

准教授 新崎 国広

#### 西小倉地区社会福祉協議会 (京都府宇治市)

西・北・南小倉学区、3つの学区福祉委員会の協議会である西小倉地区社会福祉協議会では、西小倉地域子ども会連絡協議会が主催するジュニアリーダー研修会を共催しています。30年以上の間、地域の子どもたち主体の野外キャンプ活動に取り組むことで、子どもたちと地域の活動者とは身近につながるきっかけをつくり、子どもの頃から地域に関心を持ってもらうための工夫をしています。その子どもたちが成長して、様々な地域活動を担う人材につながるよう活動を継続しています。

#### ふけ 深日地区福祉委員会 キッズEyeぼらんていあ (大阪府岬町)

子どもも大人も共に学び合い・共に育つという『福祉共育=共に育つ力を育む』を推進するなかで、小地域ネットワーク活動における日常的な見守り活動の一環として、2004年度に活動を立ち上げ取り組んでいます。学校の授業以外での主体的な「思いやりのある行動」への育みとして、地域・学校・家庭・社協が連携して取り組んでおり、下校途中に子どもたちが地域の一員として、見守り対象者(一人暮らし高齢者、障がい者など)宅を週1回訪問し、玄関先からの声かけ活動を実践しています。

#### いばら 庵原地区社会福祉協議会 (静岡県静岡市)

地域福祉の継続・向上の原点は、地域の子どもたちを育てることから始まると考え、2007年に庵原子どもボランティア隊を立ち上げ、地域ぐるみ(地域・学校・家庭との連携)で次代を担う子どもたちを育てています。隊員は小学校4年生から高校生まで、長期の休み(夏休み・冬休み・春休み)を使って、子どもたちのやりたいことを活動につなげ、子どもから大人まで、お互いを思いやり、助け合いの心をもって福祉のまちづくりを進めています。

## 施設と地域の縁を奏でるハーモニー

## 分科会 D

福祉施設は福祉サービス拠点であると同時に、地域活動の拠点でもあります。しかし、「福祉施設は特別な施設」というイメージがあり、地域活動とのコラボレーションはなかなか進んでいません。また、福祉施設を利用している人たちも住民であり、同じ地域の一員であるという意識もまだ十分には広まっていません。

利用者の思い、地域の人の思い、さまざまな思いをのせ、ハーモニーを奏でながら、「住んで良かった」と思えるまちづくりに取り組む皆さんのお話を聞いてみませんか。

#### 実践報告

- 特定非営利活動法人 こもれび(京都府宇治市)
- 明星園とともに地域の福祉をよくする会(京都府宇治市)
- 産経新聞厚生文化事業団(大阪府池田市)

#### コーディネーター

- 皇學館大学社会福祉学部

教授 守本 友美

#### 特定非営利活動法人 こもれび (京都府宇治市)

「こもれび」は高等学校を卒業したあと、どこにも通所するところのなかった、4人の重度障がいのある人たちの日中活動の「場」として、1995年にボランティアグループとして活動を開始。2002年に、NPO法人の認証を取得。スタッフや年間延べ約400人の地域ボランティアに支えられ、知的・身体の重複の障がいのあるメンバーが、「自分で決めて元気に楽しく生きる」ことを基本に活動しています。

#### 明星園とともに地域の福祉を良くする会 (京都府宇治市)

明星園とともに地域の福祉を良くする会は、社会福祉法人宇治明星園の人材や設備などの資源を活用して、地域福祉活動を盛り上げていくために組織化されました。もともとは、宇治明星園後援会として産声を上げました。結成30周年を機に、もっと地域の方とのつながりを深めたいという趣旨から、今の会に生まれ変わりました。現在、会員数は個人500人・80団体となっており、配食サービスの支援や料理教室、勉強会などを、宇治明星園の職員と一緒に企画しています。

#### 産経新聞厚生文化事業団 (大阪府池田市)

産経新聞厚生文化事業団は、1941年から新聞事業団として公益事業を開始。1969年から障害者支援施設を大阪府の池田市、能勢町、豊能町でスタートしました。現在8事業所と23箇所のグループホーム・ケアホームを運営しています。3年前、各施設から中堅職員を中心に「地域福祉推進プロジェクト」を立ち上げ、施設と地域住民の間に「なぎさ」をつくらうと、地域の人が施設に来てもらう「オープン施設」など、日々の生活を通じたさまざまな活動をしています。







## 分科会 E

# 地域を舞台に“ねがい”の協縁

きょうえん

地域には、ひきこもりなどによって、生きづらさや働きづらさを感じている人もいます。一方的に「支援される」のではなく、地域のなかでお互いが役割を果たしながら、双方向の関係性を取り戻すことが必要です。

地域の中での、生きづらさ、働きづらさを抱えている人たちの思いを知って、ともに「住みやすい地域とは何か」を改めて考えてみませんか。

### 実践報告

- 青年の社会参加を応援する会「実のり」(京都府宇治市)
- おおよど縁パワーネット(大阪府大阪市)

### コーディネーター

- 大阪大学 研究員 室田 信一

### 青年の社会参加を考える会 実のり (京都府宇治市)

1993年に不登校の親の会として活動を開始。家族からの相談対応や若者の就労支援を行なっています。2008年には、京都府の地域力再生事業の助成を受け、働きたいが外に出て行きにくい若者のために、在宅ワーク事業に取り組み、現在はハーブを栽培し、ハーブティーなどの商品づくりを若者たちとともに進めています。仕事や雇用先を開拓していくことや若者への参加の呼びかけを大切に、活動しています。

### おおよど縁パワーネット (大阪府大阪市)

現代の「無縁社会」のなかで、単身高齢者などの孤立化、老老介護の深刻化や地域福祉活動者の高齢化など、地域の担い手不足なども問題となっています。おおよど縁パワーネットでは、地域に存在する社会資源や不安定就労の若者が、地域コミュニティ活動の担い手となることで、新しい世代間の支え合いを地域に形成しています。そのような支え合いによって孤立高齢者や新たな住民層のニーズに対応しながら、孤立状態にある若者の力を注がせるようなセーフティネットづくりを進めています。

# “おもい”と“おもい”を取り持つ縁づくり

## 分科会 F

「住んでよかった」と思えるまちづくりを進めていくには、広く生活課題と向き合う自治会・町内会などの活動と、特定の課題を掘り下げるNPOやボランティア活動との双方の連携が不可欠です。みなさんが自分のまちを、住んでいる地域を「よくしたい」と思って活動していますが、なかなか両者が接点を持つことができていません。

住んでよかったと思えるまちをつくるために、お互いの“おもい”を紡ぎ合わせるにはどんな仕組みが必要なのか、考えてみませんか。

### 実践報告

- 特定非営利活動法人 大津夜回りの会(滋賀県大津市)
- 長野市社会福祉協議会(長野県長野市)

### コーディネーター

- 龍谷大学社会学部 教授 筒井のり子

### 特定非営利活動法人 大津夜回りの会 (滋賀県大津市)

大津夜回りの会は、ホームレスなどに代表される生活困窮者の支援を目的とするNPO法人です。2011年7月に滋賀県の助成を受け、新たにサロン事業を立ち上げました。これは近隣住民に加えて生活に問題を抱える人を対象としており、社会的居場所づくりと社会的仕事づくりを目的とするものです。地域の自治会、弁護士や司法書士、社協などのつながりを持ち、展開を始めています。地域定着を目指すサロン、社会参加と閉じこもり予防のボランティア活動、地域で支えるサポーター養成の3事業を行っています。

### 長野市社会福祉協議会 (長野県長野市)

長野市内5,000ヶ所を目指して推進している「まちの縁側」は、当初長野市社会福祉協議会の事業として始まり、その後、講座で関わった住民やボランティアセンター運営委員も入りプロジェクトが立ち上がりました。地区社協、住民自治協議会、地域住民が相互につながることで、もともとあるまちの縁側機能に気づき、発見しながら、ヒト、モノ、コトがゆるやかにつながる「まちの縁側」事業を通じて、多様な人たちの協働の場づくりに取り組んでいます。

## 分科会 G

# いざというときの救縁ネットワーク

きゅうえん

阪神・淡路大震災から16年が経過し、その間も多くの災害が日本各地を襲いました。そして、3月に発生した東日本大震災では、今なお多くの方々が避難所などで生活をされていたりするなど、心痛む状況が続いています。

この16年の間に、災害をキーワードにした地域活動の展開や、住民同士のつながりにも目が向けられるようになってきました。一方で、個人情報保護のあり方など、多くの課題も出てきました。

いざというときのために、「顔の見える関係づくり」を、どうつくりたいのか、また、顔の見える関係づくりが災害時に力となった話から、「いざ」という備えを地域で考えてみませんか。

### 実践報告

- 菟道第二学区福祉委員会(京都府宇治市)
- 追手門学院大学社会学部 准教授 古川 隆司
- 東園田町会(兵庫県尼崎市)

### コーディネーター

### 菟道第二学区福祉委員会 (京都府宇治市)

1994年7月に設立。宇治市内官庁街に位置し、約30年前に開発された住宅街があり、宇治市内の企業に勤務する人たちが多く住んでいます。小学生の登校見守り、高齢者のサロン、地域にある障がい者施設支援と積極的に活動を展開しています。昨年度、地域で共通課題である「防災」をキーワードに、学校、PTA、町内会・自治会に呼び掛け、「1泊2日の宿泊体験」を行いました。「たった1泊、されど1泊」の宿泊体験でつかんだ地域の課題を活かしながら、福祉委員会の活動に取り組んでいます。

### 尼崎市認可地縁団体 東園田町会 (兵庫県尼崎市)

2004年兵庫県但馬地方で大きな被害を出した台風23号により、東園田町でも猪名川、藻川の危険水位を超える事態となり、防災への危機感が高まりました。町会では、水害時でも2階以上は水に浸かる可能性が低い駅や銀行、マンションなどと独自で協定を結び、いざという時の緊急一時避難所の指定をしています。また、住宅の浸水調査をもとに、水害への意識向上を呼びかけるなど、「日ごろからの近所づき合い=自治会の力」を生かした防災活動に取り組んでいます。





## 分科会 H

### じゅうえん 縦縁でご近所福祉に 取り組む多世代パワー

小地域福祉活動団体に限らず、多くの団体では「活動をしている人の顔ぶれが同じ」ことが大きな課題になっています。活動をしたいと思っている人たちは本当にいないのでしょうか。活動を支える人たちは、次の世代にバトンタッチしていくために、「一緒にやろうよ」という人をどうやって育てていくのか、一緒に考えてみませんか。

#### 岡屋学区福祉委員会 (京都府宇治市)

宇治市の北東部に位置し、京都市にも出やすいこともあり、駅周辺のマンション居住者も多い。駅前前のマンションには利便性が良いため、転居してくる高齢者も増えています。活動は、岡屋小学校校区を10のブロックに分け、各ブロックで行うふれあいサロンなど、ご近所を基盤にした活動と、広報や学校との連携といった学区全体での取り組みを行っています。特に、子どもに関わる取り組みなど、小学校PTAとの連携により、他世代が地域の福祉活動に関われるよう、工夫しています。

#### 可美地区社会福祉協議会 (静岡県浜松市)

浜松市の西南部に位置し、東西4km 南北1kmの地区。4kmに15,000人以上が住む人口密度の高い地域です。大企業やその関連企業が多く、新興住宅地やアパートなども多い混住地域です。4町7自治会に、保育園・幼稚園・小学校・中学校が1つずつあります。自治会連合会、民生・児童委員協議会を中心に地域内の諸団体の代表を推進員とし、1994年2月5日に可美地区社会福祉協議会を立ち上げました。災害対応や自主性のある地域活動の展開のなかで、次世代へのサポートをとおしてつながりを大切に活動しています。

#### 特定非営利活動法人かべ工房村 (広島県広島市)

広島市安佐北区亀南小学校校区を対象地区として、「長井ぶらっとホーム 縁が和」を運営しています。「住み慣れたまちで、誰もがその人らしく暮らす」というのは最近どこでも耳にするような標語となってきましたが、かべ工房村では、介護保険制度や障害者自立支援制度だけでそのようなまちづくりが実現できないことを強く感じています。そこで、地域が楽しく元気になる、自然に助け合いが起こるようなやさしい地域を目指して、地域の方と共同でまちおこしを推進しています。

#### 実践報告

- 岡屋学区福祉委員会(京都府宇治市)
- 可美地区社会福祉協議会(静岡県浜松市)
- 特定非営利活動法人かべ工房村(広島県広島市)

#### コーディネーター

- 豊中市社会福祉協議会 勝部 麗子

## 住民と専門職が織りなす「縁」パワー

定員50人

## 分科会 I

地域には、専門職の関わりを必要とする人たちが暮らしています。でも、専門職の関わりだけで、地域で安心した生活を営むことはできません。地域の側から専門職に声をかけることで、関係性をつくるのが大切です。

また、専門職と呼ばれる福祉関係の人たちは、「地域住民の人とどうやってつながっていけばいいのか」、「こんなことは頼めるのだろうか」と悩んでいる声も聞きます。

お互いのことをよく知って、地域に住む人と専門職の力を織り合わせて、地域の力を高めていきたいと思います。

#### 話題提供

- 東宇治南地域包括支援センター(京都府宇治市)
- 障害者生活相談・支援センター のまねっと西宮(兵庫県西宮市)

#### コーディネーター

- 神戸学院大学総合リハビリテーション学部 教授 藤井 博志

#### 東宇治南地域包括支援センター (京都府宇治市)

宇治市内6生活圏域の一つで、三室戸寺や万福寺など歴史文化豊かな地域です。2006年4月から東宇治地域福祉センター内に開設し、高齢者相談窓口として、「地域に身近な～あったか窓口～」を目指して介護相談をはじめ、介護予防・権利擁護(虐待や消費生活問題)事業やケアマネジャーへの支援を行っています。日頃は、生活圏域内の団体(学区福祉委員・民生委員・老人クラブ・女性の会など)との各種研修会や会議などを通じて、顔の見えるネットワークづくりを行い、要援護者への早期発見・対応を行っています。

#### 西宮市社会福祉協議会 障害者生活相談・支援センター「のまねっと西宮」 (兵庫県西宮市)

西宮市から委託を受け市内10か所に設置されている「障害者あんしん相談窓口」の1つとして、相談支援を行っています。ノーマライゼーションの理念と社会福祉協議会のネットワークを生かして、人と人とのつながりを大切に、障がいのある人の多様な生活相談や支援に対応しています。一人ひとりがその人らしく暮らせるまちづくりを目指し、西宮市社会福祉協議会第7次地域福祉推進計画重点事業「障がいのある人といっしょに創るまちづくり事業」に取り組んでいます。

## 分科会 J

### まちの縁側・居場所づくり

家の縁側は、近所の人がお茶を飲んだり、子どもが友だちと遊んだりする場所です。そこではお話を花を咲かせたり、ときにはいたづらをしてしかられたり…。今、地域には「気軽に」、「ご近所さん」が集える「縁側」のような場所が少なくなってきました。

地域に「気軽に出かけられる場所」や「自分の存在が確認できるような場所」をつくり出す経過や思いを知って、皆さんも、まちの「縁側づくり」を始めてみませんか。

#### 宇治地区民生児童委員協議会 (京都府宇治市)

宇治地区民生児童委員協議会では、精神障がい者が気軽に立ち寄れる居場所「元気です会」に取り組んでいます。日常生活の中でちょっとしんどくなった時に、そこへ行くとほっとできる空間、友だちや仲間に出会える居場所づくりを目指しています。また、商店街の中で開催していることで、地域の多くの方に障がい者に対する理解を深めてもらうことを目的としています。

#### 深谷校区社会福祉協議会 (京都府城陽市)

2005年1月に空家を借り、市内初の校区社会福祉協議会独自拠点「深谷福祉ふれあいセンター」を開設してから6年、事務所・会議・サロン・子育て・サークルなどさまざまな用途に幅広く活用され、地域住民の自主的な福祉活動を支える場所になっています。「住民の住民による住民のための拠点」づくりは市内の他地域にも波及。これからも地域に理解され、愛され、必要とされる住民の居場所づくりと福祉活動の広がりを目指しています。

#### 特定非営利活動法人 ハートム (宮崎県宮崎市)

中学校のPTAメンバーが中心となって、地域の子どもの安全・安心を目的とした見守り活動をきっかけに2003年に設立。「地域を地域住民自身で守る」という想いから、高齢者、障がい者、若者など、その活動の範囲が広がっています。地域の人が集える居場所「みんなの茶の間」の運営やちょっとした困りごとをお互いに助け合う「くらしのサポーター」事業など「人と人のつながり」を大切にしながらの地域づくりに取り組んでいます。

#### 実践報告

- 宇治地区民生児童委員協議会(京都府宇治市)
- 深谷校区社会福祉協議会(京都府城陽市)
- 特定非営利活動法人 ハートム(宮崎県宮崎市)

#### コーディネーター

- 大阪市立大学生活科学部 非常勤講師 竹村 安子



# 出展ブース大募集!

サミット会場内で、校区見本市と題して、小地域福祉活動を  
紹介するブースを設けます。日頃の活動の紹介のほか、出版物や物産品の  
頒布などご利用いただけます。

**募集数** 15団体

**条 件**

- ① 出展できるのは、小地域福祉活動を行う団体に限ります。
- ② ポスターなどの展示もしくは授産品などの頒布を行う場合に限ります。
- ③ 1団体1ブースまでです。1ブースには、机1本とパネル1枚を用意しています。
- ④ 展示物・頒布物の事前受け取りは行いません。当日会場に直接お持ちください。

**出展料** 無 料 ※ただし、出展者はサミットへの参加申込が必要(1人3,000円)

**お申込**

全国コミュニティライフサポートセンター(CLC中日本)

〒465-0093 愛知県名古屋市名東区一社1-121-105

TEL:052-700-3239 FAX:052-702-7587

11月27日(日)

全国社会福祉協議会  
主催

## 平成23年度「地域の福祉力セミナー」のご案内

地域福祉活動計画を切り口に、“地域の福祉力”や“協働”の基盤的要素ともいえる地域の様々な  
人々の相互理解や合意形成、協働のための関係づくりの視点や方法について考えます。

**日 時** 平成23年11月27日(日) 開会/10:00(予定) 閉会/15:00(予定)

**会 場** 京都府宇治市 京都大学宇治おうばくプラザ「きはだホール」

**内 容**

- 午前(講義)「地域福祉の推進と地域福祉活動計画」(予定)
- 午後(シンポジウム)  
「地域の協働の場、協働のネットワークづくりを考える  
～地域福祉活動計画策定プロセスから」(予定)

**定 員** 250名 **参加費** 5,000円

※開催要綱・申込書は、近日中に下記ホームページに掲載いたします。  
全社協地域福祉・ボランティアネットワーク <http://www3.shakyo.or.jp/cdvc/>

# 会場のご案内



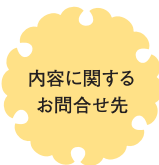
- JR宇治駅・京阪宇治駅からバス・タクシーをご利用ください。  
 (バス) 41・43～45・180系統にご乗車いただき、宇治文化センター前下車  
 (タクシー) JR宇治駅より約15分  
 京阪宇治駅より約10分
- ※駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください。  
 ※団体バスでのご来場の場合は必ず事前に実行委員会事務局までご連絡ください。

- ❀ **会場** 宇治市文化センター…………… 宇治市折居台1丁目1番地／メイン会場  
 宇治市中央公民館…………… 宇治市折居台1-1 宇治市文化センター内  
 宇治茶会館…………… 宇治市宇治折居25-2  
 宇治市生涯学習センター…………… 宇治市宇治琵琶45-14  
 宇治市産業会館…………… 宇治市宇治琵琶45-13

- ❀ **定員** 1,300人 (保育つき)
- ❀ **参加費** 3,000円
- ❀ **懇親会** 5,500円 (懇親会会場: パルティール京都)



名鉄観光サービス(株)仙台支店  
 〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4丁目10-3 住友生命ビル6階  
 〈担当〉 小山・村上  
 TEL: 022-227-3611 FAX: 022-261-4623 E-mail: kazuhiko.koyama@mwt.co.jp  
 〈営業時間〉 平日/9:00～18:00(土・日・祝/休み)



第5回全国校区・小地域福祉活動サミットin宇治 実行委員会  
 〈事務局〉 全国コミュニティライフサポートセンター (CLC中日本) 〈担当〉 島田・佐藤  
 〒465-0093 愛知県名古屋市名東区一社1-121-105  
 TEL: 052-700-3239 FAX: 052-702-7587  
 E-mail: clc@clc-japan.com URL: http://www.clc-japan.com